

～目次～

【1】TKK活動

【2】加盟団体の活動

【3】行政、他団体の活動

【4】その他

★ TKK 会員メッセージ(園田尚美氏)

★ 東京都への予算要望書

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

TKKメルマガは2008.1に第1号を発刊し、本号でVol.50を迎えることとなりました。これも偏にTKKの団体会員/個人会員の皆様のご理解・ご協力、また関連組織・団体の皆様のご支援の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

TKKメルマガ バックナンバーはこちらから : <http://brain-tkk.com/tkk/index.php>

-----∞
【1】TKK活動

* *

-----∞
<東京都へ緊急予算要望書提出>

例年、東京都へ予算要望書として各種意見、要望を提出してきました。本年はコロナ禍のなか、この問題に絞った内容で8月13日、都に提出。それに引き続き都議会各党派に説明し理解を求めました。(要望書は巻末に掲載)

===== 夏は毎年、TKKの予算要望書を東京都に提出しています。政策担当としては、いつも頭を悩ませているのですが、今年は世界中で誰もが想像していなかった「新型コロナウイルス」の感染が起きていました。いつも通りの要望内容で良いのかと考え、悩みました。

そんな中、私が所属している高次脳機能障害者と家族の会は ZOOM 世話人会を開催しました。久しぶりに仲間の顔を見て安心しましたが、挨拶がてら「みなさん、コロナの中どうですか？」と問いかけると、参加者 8 名ともに何らかの衰えや怪我、さらには救急搬送まであったとのこと。ステイホームと言われ、毎日の生活リズムが崩れたり、運動不足や他人とのコミュニケーションが減少したりで、環境の変化に対応するのが難しい高次脳機能障害者にとっては、想像以上に厳しい毎日が続いていたのです。8 人が各々の現状を話し、各自治体の状況も情報提供され、作業療法士からは「訪問リハビリ」を使えることなどの制度利用の情報も伝えられました。高次脳機能障害者と家族の会は、今年はイベントなどが何もできないけれど、話された内容は多分多くの仲間も同じようなことが起きて不安になっているだろうからと、「コロナ禍での日々」という世話人会の内容を中心に『こーじ通信 NO.102』を発行することにしました。そして要望書はやはり高次脳機能障害者のこの状況を伝え、支援を訴えなければ！と強く思ったのでした。

いつも「防災」を考える時に、高次脳機能障害者や家族も「災害弱者」となると思って、その対策が自分たちも含めて一向

に進まないことを憂っていました。今回のコロナ禍でも、世の中みんなが大変な中であえて声を挙げなければ、見落とされてしまう、と不安と焦りもありました。世話人たちから聞いた情報を基にたたき台を書き上げ、TKKのメールで修正を求めました。返信して下さった方々からは、「今年はコロナに絞っていこう！」とのご意見ばかりで、やはり最重要項目であることを改めて確信しました。通常は来年度予算に対する要望ですが、そんなことは言ってもらえない、今すぐにでも対応してもらわなければ、と「緊急および予算要望書」という名称で提出しました。

私たち高次脳機能障害者・家族としては、緊急事態における支援の枠に高次脳機能障害者が確実に加えられることによって、少しでも不安を解消し、このような状況下でも安心して生活できるようと願っています。おそらく高次脳機能障害にかかわらず、障害のある方々の多くが同じように不安を抱いているであろうと思ひ、障害者施策の中にさらなるきめの細かい、温かい支援を望んでいます。 ===== TKK副理事長 今井雅子

○ TKK主催 医療及び家族相談会

【会場A】東京慈恵会医科大学付属第三病院 2階会議室（東京都狛江市本町4-11-1）

【開催日】12/6（日）

【会場B】東京都心身障害者福祉センター 飯田橋庁舎12階高次脳機能障害支援室(研修室)
(新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ)

【開催日】10/18(日)、2021年2/14(日)

・開催時間は13:30～16:30、各回とも先着順に3組まで受付け、1組につき1時間、ご相談に応じます。

・事前にお申し込みが必要です。(空き状況をご確認の上、お申込みください)

◇申込・お問合せ(担当:細見) E-mail:mie_hosomi@jcom.zaq.ne.jp mobile:080-3483-8955

詳しくは: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=237

○TKK 勉強会 10月24日(土) 15:30～18:00 港区高輪区民センター 集会室(1F)

(港区高輪1-16-25 高輪コミュニティーふらざ内)

講演(1)サンバイオ株式会社の事業内容 講師:滝澤 圭史氏

<主要事業>再生細胞医薬品の開発・製造・販売事業 : <https://www.sanbio.com/about/overview/>

講演(2)「高次脳機能障害者支援法(仮称)」制定に向けて

講師:小島 秀人氏(調布市福祉健康部障害福祉課主任)

【2】加盟団体等の活動

* *

サークルエコー

○毎月恒例のweb活動:

・毎月第2月曜日 13:00～15:00 web集いの場 テーマに基づいた話し合い

10/12 11/16 12/14 (オンライントークイベント練習)

・毎月第2日曜日 18:00～ webすなっく えこー リモート飲み会

10/11 11/8 1213(息抜きの場・みらくルTVの話)

・毎月第1金曜日 13:00～ webかふえ エコー

10/2 11/6 12/4 (ノンアルコールの息抜きの場合)

○対外的活動:

・オンライントークイベント(10/23 11/27 12/18)

zoomを使った、家族会(サークルエコー)と支援者との情報共有の場(埼玉県ふじみ野市とふじみ野市社会福祉協議会 後援) ※都内各地からも参加予定

・創価大学経営学部(八王子市)のゼミ活動協力 →アンケート協力、高次脳機能障害ポータルサイト作成に向けてのアドバイス、コラム執筆など

杉並クローバー

●9月24日 杉並区障害者連合会参加

○10月17日 13時半～15時半 家族交流会 杉並区障害者福祉会館

11月12日 13時～16時 カフェクローバー(家族、支援者の会)

10月22日・11月26日 15時～18時 マイカフェ(当事者会)

【3】行政、他団体の活動

* *

●調布市 高次脳機能障害理解促進事業 講習会 主催:調布市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センタードルチェ、
10/9(金) 18:30～20:30

【高次脳機能障害のある方を支援するための基礎知識】 講師:渡邊修氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科診療部長) 対象:医療・福祉関係者等、高次脳機能障害のある方の支援に携わる方
今回は ZOOM を活用したオンライン講習会、定員 40 名。

==== ZOOM を活用したオンライン研修会は一般的な集合しての研修/講演会と全く遜色ない場、機能を提供できることが理解できました。ホスト側の操作にそれなりの知識、慣れが必要ですが、今回の司会・進行係の方は全く問題なくスムーズに進行、運営されていて感心しました。パワーポイントも見やすく、渡邊先生のお顔、説明のお声も鮮明で、これはスピーカーが付いた Web カメラの威力の様です。質疑応答の場面では、質問者はチャット機能を使って手を挙げて音声で発言、それについて渡邊先生が答えるというスムーズなやり取りがされました。受講者として感じたのは、PC 画面を 2 時間じっと見続けるのは会場より少し疲れるな、という感覚を持ったことです。==== TTK 理事 矢野久喜

○港区 高次脳機能障害理解促進事業 講演会 主催:港区 港区立障害保健福祉センター 6階 多目的体育室、
11/1(日) 13:30～15:30、

「地域で支える包括支援のあり方 ～高次脳機能障害にとって主体性がカギ～」

講師:長谷川 幹氏(三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長)

対象者:当事者や家族・支援者・関心のある方:先着 50 名

◇申込み:電話又は FAX で。TEL:03-5472-3710(みなとコール) FAX:03-5439-2514(港区立障害保健福祉センター)

申込期間:10月5日(月)～10月29日(木)午前9時～午後5時(10月5日のみ午後2時から)

◇問合せ先:港区立障害保健福祉センター高次脳機能障害講演会担当 TEL:03-5439-2511 (注)申し込み先と異なります

詳しくは: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=239

○第14回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会 主催:山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会実行委員会、12月5日(土) 14時~16時、参加方法:オンライン(ZOOM)

特別講演「高次脳機能障害の夫とともに」講師:柴本礼氏(『日々コウジ中』著者)

基調講演「高次脳機能障害の基礎知識、一個性を大事にした高次脳機能障がい者支援」

講師:豊岡志保氏(国立病院機構山形病院内 山形県高次脳機能障がい者支援センター医師)

◇お申し込みは10月中旬以降

◇お問い合わせ:山形県高次脳機能障がい者支援センター mail:117-yama-koujinou1@mail.hosp.go.jp

tel:023-681-3394 fax:023-681-3134

○令和2年度第3回杉並区高次脳機能障害支援セミナー 知ってほしい 高次脳機能障害 ~ともに助け合う世の中に~
杉並区役所本庁舎中棟6階第4会議室、(東京メトロ丸ノ内線「南阿佐ヶ谷駅」より徒歩1分)

12月12日(土) 13時半~16時、

第1部 基礎講座:「高次脳機能障害の基礎知識」

講師:安藤 綜太 氏(杉並リハビリテーション病院 作業療法士)

第2部 講演会:「知ってほしい高次脳機能障害」~ともに助け合う世の中に~

講師:柴本 礼 氏(イラストレーター・高次脳機能障害コウジ村代表)

申込:対象は区内在住・在勤の方、先着40名、締切り12月9日(水)

◇申込方法 Eメールの場合:件名を「第2回高次脳機能障害支援セミナー申込」とし、参加者氏名 ②住所 ③電話番号を記載の上、s-sien@city.suginami.lg.jp へ、申し込みは11月15日から受付

電話の場合(土・日・祝日を除く、平日午前9時~午後5時) 3332-1817 まで

◇申込・お問合せ:障害者生活支援課地域生活支援担当 3332-1817

○令和2年度 江戸川区高次脳機能障害普及啓発講演会「高次脳機能障害と共に生きる、あなたと共に生きる」

主催:江戸川区 特定非営利活動法人東京ソテリア、12月13日(日) 13時~15時半

タワーホール船堀 小ホール(100名)、オンライン(150名)

基調講演(鈴木大介氏)、トークセッション(鈴木大介氏、柳浩太郎氏、GOMA氏、柴本礼氏)

★江戸川区民に多く参加してもらいたいが、区民限定ではありません。

◇申し込み:区民は11/15開始。区民以外は11/19以降。オンライン定員枠を増やすことも検討中。

◇お問合せ:地域活動支援センターはるえ野 Mail info@soteria.jp(担当:長谷川) Tel 03-5664-6070

==== 鈴木大介さんと山口さんの対談『不自由な脳』、さらにもう一冊『脳コワさん支援ガイド』をご紹介します。かつて鈴木大介さんの本で『されど愛しきお妻さま』を家族会の通信でお伝えしたことがありますが、上記2冊は当事者の中で何が起きているか、ここまで言及したものは初めてではないでしょうか。『脳コワさん支援ガイド』は仕事で通院同行した原宿リハビリテーション病院でばったりお会いした稲川利光先生が書評を書いたから、と薦められました。

本業がライターであった鈴木さんの、当事者としての体験がリアルで、私の当事者や障害理解が、いかに薄っぺらだったのかと思い知らされた本たちです。家族として、支援者としてぜひお読みください。==== TKK 副理事長今井雅子

○ 第44回日本高次脳機能障害学会学術総会 11月20日(金)～12月7日(月)、Web開催、参加費1万1千円。

申込み締切は11月11日、詳細は: <http://jshbd44.umin.jp/>

【4】その他

* *

★TKK 会員メッセージ

園田尚美氏: 特定非営利活動法人日本失語症協議会理事長、公益社団法人日本脳卒中協会理事、株式会社言語生活サポートセンター代表

このたびは、TKK メルマガ 50 回記念号発行をお喜び申し上げ、関係の皆様方のお力に心から敬意をお伝えしたいと思います。「おめでとうございます。」

さて、株式会社言語生活サポートセンターは 2020 年 1 月より、介護保険施設から障害者総合支援法機能訓練事業所への変更をするべく、休業中です。再開後は、身体障害者手帳をお持ちの方、精神福祉手帳をお持ちで言語障害・失語症のある方、構音障害、吃音、舌切除などで発声等が困難な方、摂食嚥下障害のある方への嚥下指導等、言語聴覚士の職域領域で聴覚障害以外(聴覚障害は検査設備等がないので)の方に対しての、機能訓練を実施する事業所に生まれ変わる予定です。しかしながら、移行事業最中のコロナ禍、東京都への認定申請、物件(施設)の検索などの作業が止まってしまいました。外出自粛が緩和されて後、徐々に活動を再開しており、現在 2021 年早々の再開を目指しております。

そのような中、昨年、脳卒中・循環器病対策基本法施行に至り、先日はこの法案の実施案が提案され、近日中に閣議決定される予定です。日本失語症協議会は、この法案の中に外見からは障害のわからない失語症や高次脳機能障害他についての支援の記載を強く依頼、循環器病の後遺症を有する者に対する具体的な支援策を記していただきました。まだまだ、当事者団体としましては、不満は大きくありますが、大きな一歩を勝ち得たと思っています。今後は、この法案の実施状況を見守り、ニーズに応じた支援が叶うように運動を重ねてまいりたいと思います。

★ 東京都への予算要望書

令和2年8月13日

東京都知事
小池 百合子 殿

特定非営利活動法人
東京高次脳機能障害協議会(TKK)
理事長 細見 みゑ 印

緊急及び予算要望書

世界中での新型コロナウイルスの感染拡大は、この先の見通しが立たず、日本においても再び感染者数の増加状態が続いています。人口が多い東京都は国や他の自治体との連携も含め、その対応のご苦労は想像以上のものと、日々ご尽力されていることに心から感謝申し上げます。

そのような中でも高次脳機能障害支援普及事業の推進、専門的リハビリテーションの充実事業はじめ、区市町村高次脳機能障害者支援促進事業などの推進、さらに都独自の補助の実施など、日頃の東京都の高次脳機能障害支援に関しても、感謝いたしております。

誰もが経験をしたことが無いこの状況において、多くの人たちが新型コロナウイルス感染防止のために生活を変えることを余儀なくされている中、高次脳機能障害者や家族にとっても、この生活の変化は障害そのものにも大きな影響や不安を与え、いつにも増した支援を必要としています。

障害に限らず、多くの人たちへの支援が必要な社会状況下ではありますが、私たち高次脳機能障害者や家族が少しでも安心して生活が出来るよう、下記の事項について、本年度(令和2年度)施策に対する緊急要望、及び次年度(令和3年度)予算に対する要望をいたします。

記

1. 相談について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、高次脳機能障害者や家族からの相談が増えています。軽度で障害者手帳も取得しないまま復職された方が、コロナ禍で解雇となり、支援を受けるためには早急に手帳が必要となったというケースもあります。その際、区市町村の障害福祉担当窓口にて、相談および利用申請をしましたが、コロナ禍の影響もあり、なかなか進みません。一家の生活や本人の障害状況にも不安と焦りが募っています。速やかな対応が出来るよう、東京都からの指示をお願いします。

また相談ケースも通常の時より増えています。上記のようなケースの他、ステイホームの中、障害が顕著化、悪化したケースやそれによる家族への暴力の発生などの相談もあります。コロナ禍における相談窓口の対応について、事例や対応などを示した通常以上の取り組みの促進をお願いします。

2. 新型コロナウイルス感染症を診断するためのPCR 検査等について

介護者が発熱などでPCR 検査を受ける場合、もし陽性だった時には、当事者を置いて入院できません。また入院したとしても後日に当事者を検査させることも困難です。そういう場合には、一緒に検査を受けられるようにしてください。

また介護者が陽性で、当事者が陰性の場合、介護者が安心して医療を受けられるよう、当事者を保護してくれる対応をお願いしたいです。実際、杉並区では廃園になった保育園を利用し、2週間の保護を実行してくれることになっています。

また、東京都から区市町村へのこのような緊急時の対応の実施に向けた働きかけと、自治体格差が生じないように、指導をしてください。

3. 高次脳機能障害者が罹患した場合、及び濃厚接触者と判断され隔離される場合について

3月からの自主自粛、施設等の閉所や自粛要請、勤め先の休業または解雇などで、多くの当事者が自宅にいる生活を送っていました。「新型コロナウイルス感染症」を理解できる方、出来ない方、さらに手洗いやうがい、マスクの使用が出来る方、出来ない方、など様々です。そして多くの方々に、何らかの衰えや障害状況の悪化、体調の変化がありました。さらに自らは体調不良を訴えられない方々も多くいます。

また、高次脳機能障害の8割を占めていると言われる脳卒中の当事者は、一般の方々よりも免疫力や体力が弱まっていると考えられ、一般の方々よりも感染しやすく、感染した場合に重症になり易い可能性があると言われていています。

もし本人が罹患し、軽度だった場合、他の方々と同様にホテルなどに入れるのでしょうか？

高次脳機能障害者は環境変化への対応が難しいので、隔離された際に指示の理解や自己管理ができずに混乱する方もいます。療養や治療に支障が無いように、家族や日常的に支援にあたっている人のアドバイスを受け、可能なことは対応して頂けるように各保健所や医療機関等に協力を求めてください。

よって、高次脳機能障害にかかわらず、障害のあるの方々への対応の指針をお示しください。家族は心配で検査を受けることを躊躇してしまいます。

4. 就労の確保に向けて

コロナ禍で解雇された当事者、就労訓練が中止になったままの方などがいます。一般の方々も失業の方が多数おられますが、高次脳機能障害者も支援の枠に入れ、訓練を再開し、再び仕事ができるようにしてください。

5. 都道府県の必須事業として開始した「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」において、実施人数、実施場所を増やしてください。

東京都の「失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」の実施回数を増やし、支援者の数を増やしていただきたい。年に1回、必修基礎コース44名、応用コース24名(令和2年度)では、八王子での実施が増えたとはいえ、多くの人口を抱えた東京都に対応するには少な過ぎます。希望者が講習会に参加しやすい実施場所や回数、人数を検討してください。

以上